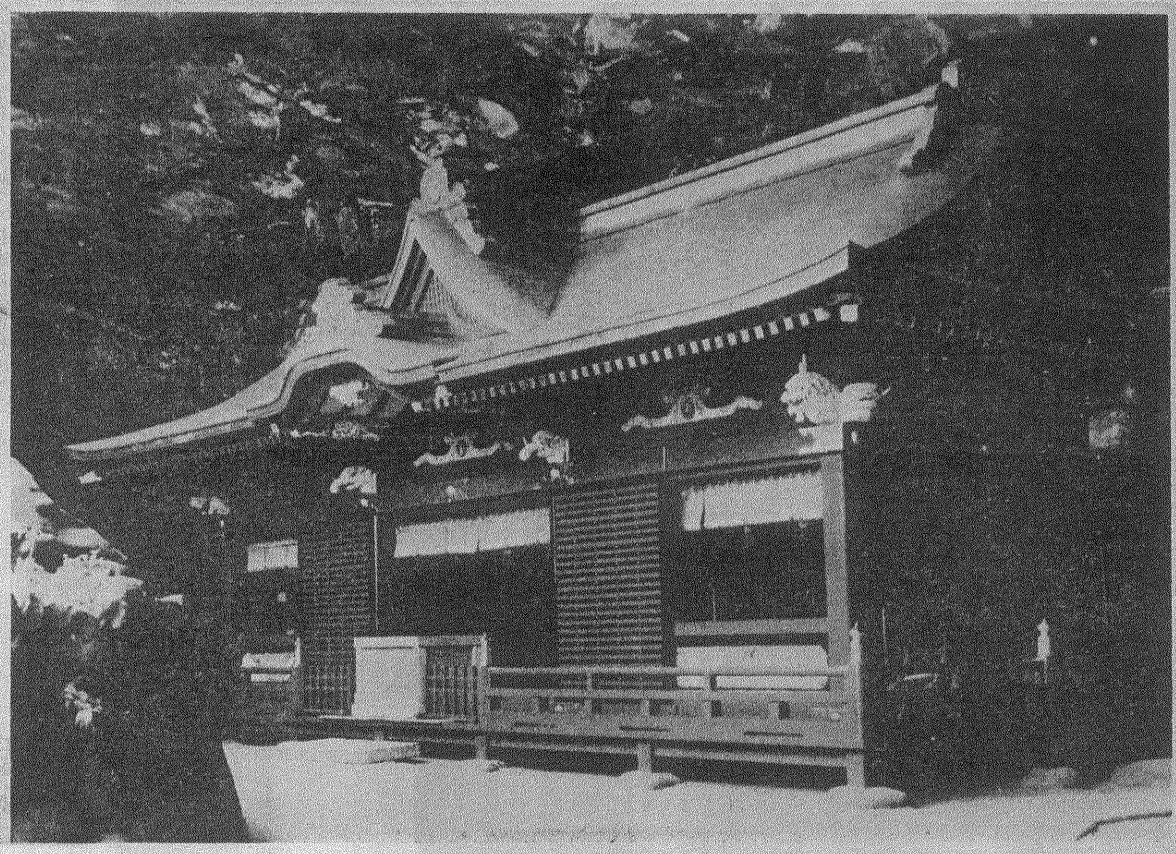
鵜戸

発行者兼編集者　鵜戸神宮社務所
印刷所　合名会社　勇進堂印刷所



新装なれる鵜戸神宮御社殿

御造営に要する巨額の費用を、市井に求めることは実に至難のことであつたが、赫々たる御神威を畏み一念発起せられてから歳月は流れて二十有余年、世紀の事業たることを深く認識せられた特志者の方々の御芳志と、直接その衝にあたられた、奉賛会役員方の御努力は昭和の造営として、永世特筆銘記せられることであろう。

題字について

明治初頃政、神仏分離後、皇典講究所総裁として、神殿、幣殿、拝殿造営す。同、天正十四年島津義久藩費を以て楼門を造営す。

一、人皇第百十四代東山天皇、宝永五年本殿以下造営に着手、第百十五代中御門天皇正徳元年九月二十二日、本殿以下末社等竣工遷宮奉仕す（二五八年前）藩主伊東大和守祐実、藩費を以て造営す。

一、明治二十二年より二十三年四月迄本殿以下を営繕金及び寄附金を以て修繕す。

一、昭和四十三年七月十三日、本殿以下改修築竣工正遷座祭並に奉仕す。御内帑金を始め造営奉賛会寄附金を以て造営す。

（四八〇年前）藩主伊東義祐、藩費を以て、神殿、幣殿、拝殿造営す。同、天正十四年島津義久藩費を以て楼門を造営す。

一、人皇第百十四代東山天皇、宝永五年本殿以下造営に着手、第百十五代中御門天皇正徳元年九月二十二日、本殿以下末社等竣工遷宮奉仕す（二五八年前）藩主伊東大和守祐実、藩費を以て造営す。

一、明治二十二年より二十三年四月迄本殿以下を営繕金及び寄附金を以て修繕す。

一、昭和四十三年七月十三日、本殿以下改修築竣工正遷座祭並に奉仕す。御内帑金を始め造営奉賛会寄附金を以て造営す。

鵜戸神宮御祭神

（宝殿三殿あり）

正面宝殿　ヒコホヽデミノミコト
〃　ウガヤフキアエズノミコト
左側宝殿　神日本磐余彦尊（神武天皇）
大日霊貴尊（天照大御神）
天忍穂耳尊
右側宝殿　彦火瓊々杵尊
彦火出見尊

宮内末社

皇子神社　彦五瀬命　元船形山鎮座
創立年月不詳　明治初年移転
元和四年改築
井上真改大阪に於て鍛刀の際当稲荷大明神を祀り宮内の霊水を禁裡に運び三振の大刀を納いたる出見ゆればそれ以前の創建なることを知るべし
火産霊神社　火迦具土神　享保十八年修復
創立年月不詳
底筒男神　中筒男神　上筒男神　創立年月不詳
住吉神社　仁徳天皇　万治三年再興
福知神社　創立年月不詳
九柱神社　神直毘神始め祓戸大神九柱　創立年月不詳
境内末社　稲荷神社倉稲魂神　太田神大宮姫神　創立年月不詳

皇祖ウガヤフキアエズの尊を主祭神として神武天皇まで御六代、六柱を奉斎する元宮幣大社鵜戸神宮の御社殿を御改修申上げることについては戦前内務省当時、国費をもつて造営のことが地元宮崎県より、時の政府に建議され閣議に於いてもその決定をみたのでありましたが、終戦によりその計画も実現をみるに至らず、戦後の世相の混乱に併せて政教分離の神道指令は更にきびしく、神社の維持経営にさえ支障をきたす状勢となり、為に当宮の御改修のことも又非常に困難な局面を迎えて憂慮されてまいりましたが、地元宮崎県をはじめ全国の敬神篤志の人々の念願は遂に実を結び、去る昭和三十七年に人々の尊い誠を結集して、組織された鵜戸神宮造営奉賛会の力強い発足以来、神宮関係者はもとより、奉賛会の役員各位の非常な御努力と御熱意により、至難の業であつた募金活動も漸くにして道が開け、気運も湧まり、それにつれて御神威を敬仰する崇敬者の浄財は、大蔵省の格別のおとりはからいによる免税措置と相俟つて予想以上の進展をみ、いよ〳〵着工の方針も定まつた昭和四十二年、奇しくも私が鵜戸神宮々司の重責を仰命することとなりました。その二月一日の例大祭の当日には起工祭を御奉仕申上げる事が出来て、感激のうちに第百十四代中御門天皇正徳元年より起算して二百五十七年目御改修の工が、槌音も高く着手されたのであります。爾来全国各地より寄せられる浄財更に畏くもその年の五月一日には天皇陛下の御内帑金の御下賜をはじめ全国関係者地元氏子挙げての協賛、募金も改修工事と共に順調に進み、昭和四十三年六月末日をもつて、宮内御本殿をはじめ末社の御改修に至るまで総て見事に復元完成されたのであります。

斯くして七月九日の新殿祭にはじまる関係諸祭儀を古式に則り四日間に亘り滞ることなく奉仕を了え、続いて十三日午前二時当宮の古くからの慣例による丑の刻を撰び正遷座祭同十時より、さしもの広い神域も奉賛の熱誠の人垣に埋もる中に常陸宮全妃両殿下の正式御参拝を仰いで奉幣奉祝祭を日出度く御奉仕申上げたのでありますが、今こゝに宮司としての重責を果し、復元された壮厳な御社殿に額く私の感激とよろこびは、とりもなおさず数十年来幾多の苦境に耐え、御改修への念願にのみこもえながら総てを傾けて御奉仕への誠を尽して今日の慶事の基礎を作つていたゞいた先賢の心情につながり、その思いに至るとき正に感無量のものがございます。

時恰かも明治維新百年の記念すべき年に、世紀の偉業を完成し得ましたことは偏に広大無辺なる御神徳の然らしむるところと恐懼あたわざるところでございますが、その御神徳の発揚に、又奉賛事業に一貫して御尽力頂きました総裁、会長をはじめ役員各位の並々ならぬ御努力、又多年に亘つて協賛の熱誠を捧げられた、崇敬者各位の御心情に対し、こゝに改めて厚く御礼申上げる次第でございます。

今や当宮は全国屈指の浄地として又観光地として広く世に知られるところとなり、日を追つて参拝者もその数を増して類をみない天下の景勝地として冠たるものがありますが、それに伴つて神社本来の重大な使命であります青少年育成、社会教化活動を目的とする第二第三期工事の社務所の増築、修養道場の新築、更には時世に順応して境内の整備等、数多くの重要事業が残されております。

顧りみまするに悠久二千有余年連綿として絶えることのない尊い此の鵜戸山の伝統の中に貴重な歴史の一頁を刻む一連の偉業完遂を目指して後世に悔を残すことのない様にと決意も新たに努力を続けております意のあるところを宜しく御理解頂き、今后より一層の御協賛と御支援を賜ります様、御改修完工の御挨拶に併せてお願い申上げます。

尚昭和御改修を記念して社報「鵜戸」を発刊することに致しました。

今后は此の社報を通じて崇敬者の皆様方に鵜戸山の社務の近況をお知らせすると共に相互の連絡、種々の御案内等、広く御利用頂きます様、併せて御願い申上げます。

御神威を畏みて

鵜戸神宮　宮司　長友安美

長年の懸案であり関係者の切実な悲願でありました鵜戸神宮造営事業第一期の御社殿の御改修を了えて、去る昭和四十三年七月十三日午前二時浄闇のお宿に正遷座の御儀を御奉仕申上げた日の感激も新たに、今茲につゝしんで御挨拶申上げます。

皇祖ウガヤフキアエズの尊を主祭神として神武天皇まで御六代、六柱を奉斎する元宮幣大社鵜戸神宮の御社殿を御改修申上げることについては戦前内務省当時、国費をもつて造営のことが地元宮崎県より、時の政府に建議され閣議に於いてもその決定をみたのでありましたが、終戦によりその計画も実現をみるに至らず、戦後の世相の混乱に併せて政教分離の神道指令は更にきびしく、神社の維持経営にさえ支障をきたす状勢となり、為に当宮の御改修のことも又非常に困難な局面を迎えて憂慮されてまいりましたが、地元宮崎県をはじめ全国の敬神篤志の人々の念願は遂に実を結び、去る昭和三十七年に人々の尊い誠を結集して、組織された鵜戸神宮造営奉賛会の力強い発足以来、神宮関係者はもとより、奉賛会の役員各位の非常な御努力と御熱意により、至難の業であつた募金活動も漸くにして道が開け、気運も湧まり、それにつれて御神威を敬仰する崇敬者の浄財は、大蔵省の格別のおとりはからいによる免税措置と相俟つて予想以上の進展をみ、いよ〳〵着工の方針も定まつた昭和四十二年、奇しくも私が鵜戸神宮々司の重責を仰命することとなりました。その二月一日の例大祭の当日には起工祭を御奉仕申上げる事が出来て、感激のうちに第百

鵜戸神宮造営の社伝

日本国史研究会編の年表に依る

一、主祭神ウガヤフキアエズ尊並びに神武天皇御生誕及び、御住居の地、皇御東遷後、宮居跡として格護せられたと伝う。

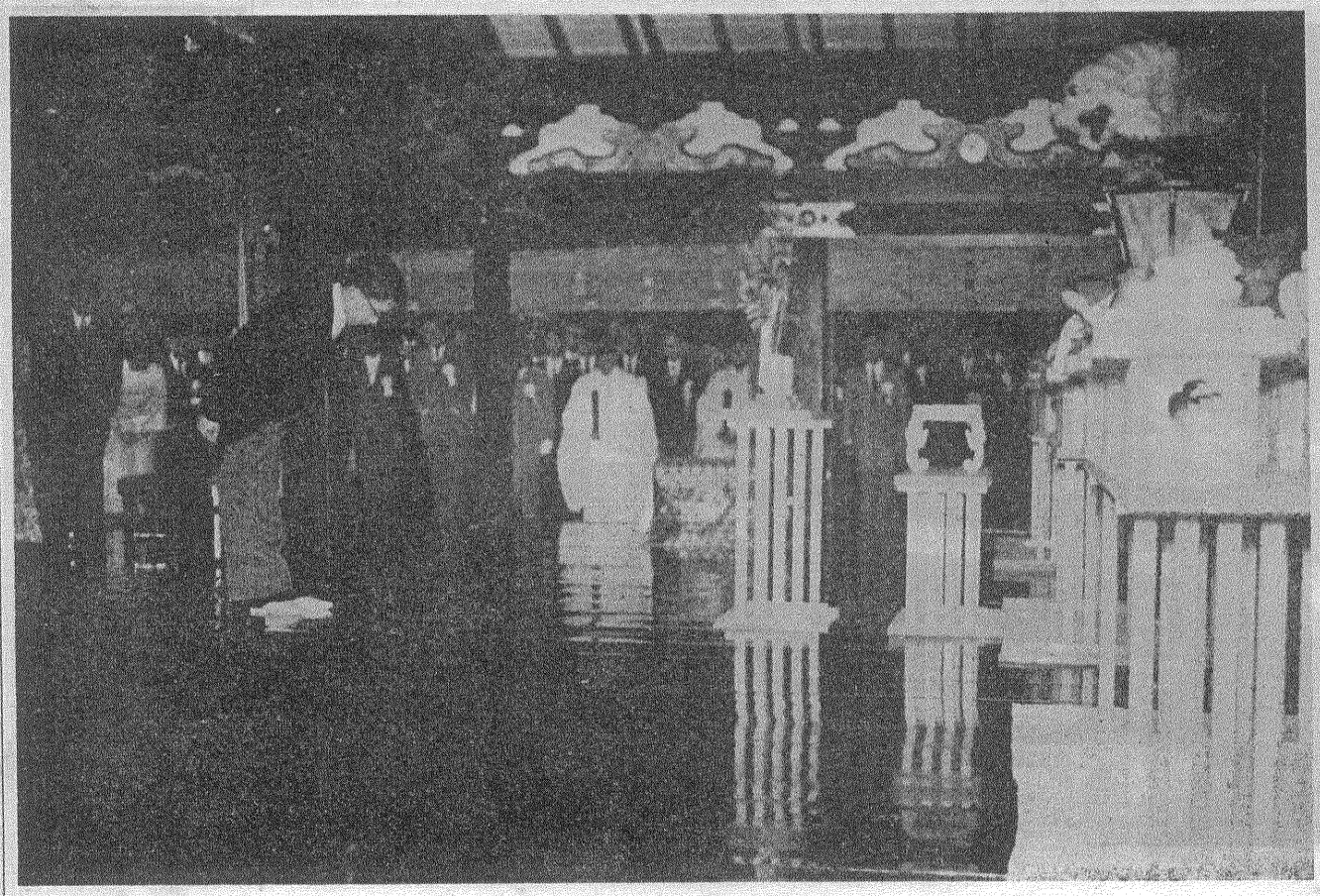
一、人皇第十代崇神天皇の六年（二、六〇年前）改座社殿造営さる。

一、人皇第三十三代推古天皇御宇本殿以下御改修（年月不詳）

一、人皇第五十代桓武天皇の延暦元年（一一八八前）別当二光寺坊快久、勅命を蒙り御神殿再建並に、寺院を建立、鵜戸山大権現吾平山仁王護国寺の勅号を賜う。

一、人皇第百六代正親町天皇、永禄三年戊申

正遷座奉祝祭に御参拝の常陸宮同妃両殿下



七月十三日午前八時三十分、青島海岸の景勝地なる県青島寮を御出発の常陸宮同妃両殿下には午前九時五十分、神宮参道下観光バス停留所に御着、之より鵜戸神宮造営奉賛会長日南市長の御出迎をうけられ、参道両側に奉迎の大衆に会釈を賜いつゝ便殿に（社務所）御着、暫く御休息、正装に御更衣の後佐藤祢宜の先導にて、御社頭に進まれ午前十時三十分より約三十分の間に渉り、皇祖の御神霊に玉串を捧げて恭しく御拝遊ばされて退出、社務所に御休息御更衣の上、宮司外知事市長市議長等の挨拶を享けられ、十一時二五分宝庫西側に、鉄肥杉の若苗を御手植、奉賛会関係者並びに特別奉迎者に御会釈を賜いつゝ、剣法発祥地顕彰碑前にて郷土舞踊、秦平踊を賞でられつゝ海岸参道駐車場より諸員奉送に預えられて日南つよし学園に向はれた。

皇族方御参拝の記録

大正天皇（皇太子時代）	明治四十年十月三十日
裕仁親王殿下	大正九年三月二十九日
伏見宮博義王殿下	大正十年二月七日
北白川大妃富子殿下大正十三年五月十九日	
秩父宮雍仁親王殿下	大正十四年二月二十八日
伏見宮博恭王殿下	大正十四年三月九日
高松宮宣仁親王殿下昭和六年九月二十八日	
久邇宮朝融王殿下	昭和六年九月二十九日
李王こん殿下	昭和七年一月三十日
梨本宮守正王殿下	昭和八年四月一日
秩父宮同妃両殿下	昭和九年十月七日
朝香宮鳩彦王殿下昭和十四年六月二十一日	
照宮成子内親王殿下昭和十五年十月十五日	
賀陽宮同妃両殿下	昭和十五年十一月二十一日
久邇宮家彦王殿下昭和十六年七月二十三日	
三笠宮崇仁親王殿下	昭和十七年九月五日
朝香宮鳩彦王殿下昭和十八年十月二十七日	
賀陽宮美智子女王殿下	昭和十八年十一月二十八日
元賀陽宮邦寿王殿下	昭和二十四年十一月六日
義宮正仁親王殿下	昭和二十九年四月七日
高松宮宣仁親王殿下	昭和三十年六月二十二日
三笠宮同妃両殿下	昭和三十年十一月十四日
高松宮妃喜久子殿下	昭和三十五年五月十三日
皇太子同妃両殿下	昭和三十七年五月四日
義宮正仁親王殿下	昭和三十八年八月二日
常陸宮同妃両殿下	昭和四十三年七月十三日

以上

昭和御造営の概要

鵜戸神宮の御社殿が、中御門天皇の正徳元年、時の藩主伊東祐実公に依て、藩費を以て修復せられて以来二百数十年を経て、腐朽損傷甚だしき為に去る昭和十七年、宮崎県会は皇祖発祥の聖域に相応しく官幣大社としての面目維持の為にも速かに、国費を以て御社殿の改修実施方を所管内務省に願出られ、当局に於ても実情止むべからずとし、之が実現に内定したのであるが時恰も、戦局重大国事多端の際であったがために、遂に中止のやむなきに至り終戦後は、民心の不安と経済界の疲弊はその極に達し、国民等しく明日の糧を案ずるの状態であり、加うるに進駐軍の政策によって、神宮神社に対しては一切公費支弁を差止められたが為に、奉仕の祀職は勿論氏子並びに郷土の有識はいかにして、御造営に要する巨額の費用を調達するかに日夜腐心、僅かに御社頭に於て参拝者に対して、資金寄進方を願い機の熟するを待ったが、昭和二十八年九月六日鵜戸神宮造営奉賛会結成奉告祭を期とし、県内はもとより東京、近畿等奉賛会支部を設け役員を委嘱し全国の篤信者に援助方を懇願した処、御蔭を以て有志の赤誠は陸続として実を結び本殿以下主要建物改修に要する諸費は、短期日の間に集り、昭和四十二年二月一日には起工式、同七月十三日に上棟祭等工程に倚り順調に進捗、昭和四十三年六月末には新装なれる、御社殿を拝することが出来たことは、御神威の然らしむるところとは申せ、上は、皇室を始め政府の要人方亦全国有志の特別御支援の賜と、役員各位の挽ゆまざる御努力のお蔭と、関係者一同感激措く能はざるところ、茲に鵜戸社報創刊に当り巻頭に御造営の経過と、御芳情の一端を記し、世紀の事業第一期の成果を御報告申し上ぐる次第である。尚詳細に渉っては不日、御造営誌を編纂し御神威の発揚と賛助者各位の芳名を永世に伝える所存である。

お祝いのことば

鵜戸神宮造営奉賛会総裁
宮崎県知事
黒木博

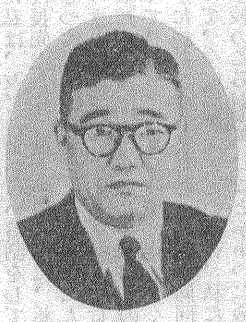
永年の念願でありました鵜戸神宮の造営が地元関係の皆さまをはじめ、県内外多数の崇敬者各位の全幅的なご支援、ご協力によりまして、立派にその完成をみましたことを心から嬉しく思い、また皆さまとともにご同慶にたえません。

かえりみますと、二百五十余年もの長い間風雨や潮波に耐えぬいてまいりました社殿は数々の歴史的由緒をもって今日にいたりましたが、その腐朽損傷が著しく、地元関係者および各方面の強いご要望によって、これが改修が行なわれることになった次第であります。昭和三十七年に鵜戸神宮造営奉賛会を結成し造営趣旨の普及をはじめ、造営に要する経費の募金などに、関係者は日夜献身的ご努力を続けられてまいったのであります。もちろん関係者のご労苦は並々ならぬものがありましたが、幸いにいたしまして、県下をはじめ、全国の皆さまから深いご理解とご協力をいただくことができ、昭和四十三年二月一日には待望の起し式を挙行することができました。以来、一か年有余の難工事を経て、昭和四十三年七月、めでたく造営の完成をみた次第であります。ときあたかも明治百年の記念すべき年にあたり、同年七月十三日には、常陸宮・同妃両殿下をお迎えして造営完成の祝典を盛大に開くことができ、関係者のよろこびは特に一入のものがあったのであります。

ここに改めて、本社造営にご協力いただきました皆さま方に、深く感謝申しあげます。

ご承知のように、わが宮崎県は、神話、伝説のふるさととして、今やひろく国内外に知られるところでありますが、なかでも当社は太陽と緑と黒潮のなかに、その特殊な風物がもっともよくみられる佳境、日南海岸に鎮座し、その壮厳、雄大な境内は、伸びゆく宮崎県の一象徴としてこれまで以上に各方面の大きな関心を呼び、深い感銘を与えることができるものと確信しています。

このたび、このはれやかな神宮造営完成を記念して、社報「鵜戸」が創刊の運びとなりましたことは、まことに意義深いものがあり当社が地域住民をはじめとして、ひろく全国の崇敬者と連けいを一層緊密なものとし、今日漸く認識されつつあります精神文化の高揚のための一助として、大いに発展していくことを念じてやみません。



鵜戸神宮御造営竣工について謝辞

鵜戸神宮造営奉賛会会長
日南市長
井戸川一

鵜戸神宮の御社殿が二百余年の永い歳月を経て、腐朽損傷が甚だしく、改修築の議がおこってから既に年久しくなりますが、何分にも巨額の費用を要する、世紀の大事業である為に、実施の機熟せず、殊に大東亜戦後は、民生の疲弊困憊其の極に達し人心は混迷と虚脱の中にあり、自らを守るに汲々たる状態の上に、神宮、神社に対しては、国、府県等公的団体よりは「如何なる援助をも供与すべからず」との所謂神道指令によって、御社殿の修復も、神宮当局に於て其の経費によって、実施するより外途なき状態でありました。然るに一面、世相の変転は目まぐるしく、国民の発奮勉励によって、戦後二十年にして人心の安定と共に、経済の発展は世界の水準に達し、東洋の雄国として又世界有数の工業国として、自他共に許す状勢に進歩し、交通網の整備は、日本国土開発の因となり、観光ブームの果となって、日南海岸国定公園の制定は更に、鵜戸周辺の風光明媚を天下に知らしめ神宮参拝、観光者は年間百万人を突破する状態となりましたので、神宮の要望と地元有志の協議により、鵜戸神宮造営奉賛会を結成し篤志者の御寄附をお願いいたしましたところこれ又短時日の間に目途に達し、御本殿外主要建物の工事も順調に進行、昨年六月末に目出度く竣工し、七月初旬から執り行はれた祭典その他の行事も、怠りなく御奉仕をおえましたことは誠に慶祝の極みでこれ偏えに御神徳の然らしむところとは云え、上は、皇室を始め全国篤志者の御配慮、県内各地有志の特別の御援助と、関係役職員各位が種々の困難を排して御努力下された賜と、心から謝意を表する次第でございます。又特にその竣工奉祝祭に、常陸宮同妃両殿下の御参拝を辱くしたことは、世紀の大改修完成の悦びと共に神宮社誌に一段の光彩を放つものとして、氏子の皆様と共に歓びに堪えない次第で、当日御社頭に参集せられた来賓その他数千の御満悦の様子や、古色蒼然たる洞窟に調和して重厚荘麗に輝く丹塗の御社殿を仰ぐとき、只感極って涙した次第でございます。尚今後引続き第二期工事として、参拝者の休養修錬殿社務所の増築等につき、目下鋭意研究を進めておりますので今後共、宮敷各位のご指導のほどお願いしますと共に、今日の成果の陰に幾多の先輩方の永年に亘る心身を郷つての御奉仕のあったこと、又東京、近畿等出先に於て凡ゆる困難を克服して郷土の氏神、鵜戸神宮のために御活躍なされたとのそと、大衆啓発の為に御活躍なされると共に、本会結成有終の美をなしたい決意でございます。又今後神宮より社報「鵜戸」誌が発刊せられ、御神徳の宣揚と、職員方の御労苦に対しても満腔の敬意と、大いなる期待をよするものであります。

社報の発刊を祝して

宮崎県神社庁長
甲斐武教

今回鵜戸神宮に於ては御造営が御立派に完成され刊を御計画になり、其の創刊号に小生にも一文をという御命令でありました。斯ふ云う企画は真に結構な時機を得たものでありまして、実に今日全国の大社は何処でも為されて居る所であります。鵜戸の如く悠遠の歴史を有されて居られる御社では書けども書けども尽きざる事が多く又将来も出でて来る事と思うのであります。而し問題は其の編集内容であります。折角企画はしたものゝあとが続かないと云う事にならない様に祈る事切なるものがあります。

宮崎神宮でも「養正」を刊行して居りますが、今回の御改築を機に社報の発刊を御計画いただいた事を感謝致します。

鵜戸神宮御本殿の改築竣工を寿ぎて

鵜戸神宮造営奉賛会東京支部長
大坪俊次郎

畏くも鵜戸神宮御本殿の改築に着手せられたのは昭和四十二年二月一日の事であったのでありますが、爾来一年有半此間長友宮司を始め事務当局、造営奉賛会関係者各位の並々ならぬ御尽力とにより、御造営の事も順調に進捗し、去る七月十三日仏暁正遷座の儀がいとも厳かに滞りなく執り行はせられ、引続き全日朝十時より祝賀の儀も行はせられ、此間親しく常陸宮、全妃両殿下の御参拝もあり、目の当りこの式典に列した者の一人として、この上ない感銘に打たれた次第でありました。

不肖私も神宮造営奉賛会東京支部長の席を汚し、支部幹部諸君の御協力を得て責任の一端を幾分なりとも果すことが出来ましたのは一重に、神霊の加護によることは申す迄もありませんが、御援助をいただいた奉賛者各位の御協力によるものでありまして、衷心より感謝の意を表する次第でございます。

顧みますれば、旧御本殿の造営せられましたのは今から二百五十余年前旧飫肥藩主伊東祐実公の寄進修造によったものと伝えられて居りますが、今回の御改築は、能ふ限り原形を損しないようにとの特別な配慮によってなされましたので、華麗なうちにも荘厳な形を復旧せられました事は、幼年時代より度々参拝の機会を持ちました私としては此上ない歓喜と感激に打たれるものがありました次第です。然し戦後わが国民思想が、軽佻浮薄に流れ、その上混れる民主々義の横行によって、年と共に、各方面に無秩序な事態を招来して来ましたことは、識者の等しく遺憾に思うところでありますが、殊に最近観光事業の普及道路交通機関の整備に伴い、我が郷里日南地方の得難い自然の景観も、関係各位の熱心な努力にも拘らず、思慮なき人々によって荒されて行くことは、返す返すも堪え難いことと申さねばなりません。我が鵜戸神宮の御神域も日向灘の荒波に打たれた奇岩、怪石は往時と何等変るところはありませんが、鬱蒼とした背部の吾平山陵の樹林等は、戦争、台風等によって残念ながら荒廃して往時の緑深い景色は消え去った感じがするのでありますがこれは年を経れば自ら又以前に帰る事も不可能ではないと思はれますが、心なき観光者等のため清浄なる神域がこの上更に荒されることのないように、当局は勿論、県、市町村民各位の深い理解と努力の下に常に神域を守られ思慮なき人々の反省を求められ、清浄な鵜戸神宮を国家鎮護の大神様、我が愛する郷土の守り神として崇敬の誠をささげたいものであります。

茲に謹しみて御本殿竣工を寿ぎ奉る。（昭和四十三年十二月於東京これを誌す）

社報「鵜戸」創刊を祝して

鵜戸神宮造営奉賛会近畿支部長
橋本修三
（神東塗料株式会社相談役）

明治百年のまことに意義深いこの年に県民多年の悲願であった鵜戸神宮が滞りなく改修完成し、七月には厳粛盛大なる遷座祭が行われたことはまことに慶賀に堪えません。

鵜戸神宮の造営は、一宮崎にとゞまらず全国にまたがる真心こもる寄進により完成されましたことはまことに有意義であり、感激に堪えない次第であります。

寄勝奇岩が点綴する鵜戸岬の景観は古松の翠と白くくだけ散る怒濤の轟きに彩られ清爽な太洋の精気の下に参拝する人々の心髄に神秘の霊感を呼び起さずにはおきません。この素晴らしい環境に鎮座ます新本殿はまことに雄大にして荘厳参詣の老若男女は等しくその霊気に深い感動にうたれます。

かつて祖国日向が生んだ偉大なる日本の外交官として否世界の歴史に残る外交官として名を馳せた小村寿太郎侯が、奇しくも幼少時代この鵜戸神宮の霊気にうたれて大成したことはまことに宜なるかなと考えられます。

今般ご本殿完成を記念して社報「鵜戸」を創刊されるとのご通知をいただき、まことに有意義な企と考えこゝに粗文を呈してご祝辞にかえる次第であります。

鵜戸神宮御造営の御竣工を奉祝して

京都雅楽会名誉会長
須賀神社宮司
佐師朝規

此の度鵜戸神宮の御造営が御立派に完成され常陸宮同妃両殿下の御参拝を仰ぎ厳儀が盛大に執り行はれました事は神社神道の興隆の為にも且つ又神宮の盛儀として誠に目出度き極みで有ります。

此の盛儀に当り奉祝の為に舞楽の奉奏が我が京都より招かれ千三百年の伝統を誇る無形文化財の最高芸能で宮中の儀式社寺の祭典礼楽として或は一般の教養的に被露され今日迄連綿として承け伝へられた宮庭舞楽を神宮の大前に恭しく奉仕出来ました事は最も光栄として会員一同此の慶事に随喜し誠悃を捧げ奉つた次第で有ります。

畏くも鵜戸神宮は皇城鎮護の神として朝庭の尊崇特に厚く庶民は古来より漁業の大祖万民豊楽の神霊を称へ殖産興業の守護神として参拝者は踵を接し又剣法は念流陰流の創始者相馬四郎義元及び愛洲移香斎を始めとして幾多の剣豪が神示を仰ぎ彼の筑前琵琶。薩摩琵琶の本源をなした祐教霊師も秘曲を授り、神宮に祈請して霊験を蒙り我国の産業と文化の発展に貢献され人も数多く実に此の神宮こそは太和民族の発祥の地として又日本国民の魂の古里で有ります。

此の度時恰も明治維新百年の意義ある年に県民一致協力して全国民の崇敬の誠により二百五十七年目に社殿の改修と神域の整備等の一大浄業が復興され内容外観とも充実して大社としての格式と貫禄とを具備され鵜戸山の景勝と共に多くの氏子崇敬者はもとより一般の人々と共に賛仰して慶びにたえない次第であります。

神宮の発展は我が国の発展であり神宮の慶びは又全国民の慶びであります。

神宮が益々興隆発展して御神威が四海に恰き万民ひとしく御神徳に浴する事を祈念して心から御祝辞を申し上げ、尚神宮当局の御労苦に対し敬意の誠を捧げる次第であります。

浦安の舞を舞つて

鵜戸中学校三年　増竹裕子

浦安の舞を舞つたのは、今を去る三ヵ月前七月のことでいくらか記憶もうすれておりますが要請されるままに感想文を書いてみることにしました。私があんな着物を着たのは勿論初めてでした。はかまをはいて、白衣を着て、暑い夏でしたので七枚もの着物を着るのはとてもたいへんでした。でもうれしいという気持もありました。たくさんの人が見ていましたが、あまりあがつたりせず、練習のときのような気分で踊れました。

練習は土曜、日曜で日曜日ゆつくりやすめないのが残念でした。けれども何かいつしようけんめいやるのはいいことだと思いやりました。踊りがいやになることもありませんでした。めつたにひざまずいて座つたことがなかつたので、足がしびれてしまい、どうしようもないときがありました。歌も長くのばすのでにがてでした。それから、すその長い着物を着て練習する時、すそが足にからみついてなかなかうまくならなかつたこと。同じ動作を何回もくり返さなければ覚えられなかつたことなどいろいろあり、いやな時もあり、何日もしていると足が痛くなつたりしました。いろいろな事がありましたが、あまり目立つた失敗もせず踊れたことは、よかつたと思います。

浦安の舞を舞つたことは、いつまでも思い出の一つとして私の心の深くに残ることと思います。

浦安の舞を舞つて

鵜戸中学校二A　清水光枝

最初先生から、浦安の舞を舞つてみないかと言われて、びつくりしました。でも一生に二度とない事だから舞つて見ようという気になり、長友先生の指導により、約一ケ月半の練習を続けました。最初は、小さいところで気をつけなければならないのでむずかしいなあーと思つたこともありました。また学校があつたので、週に二回しか練習ができませんでした。それで、一生けんめいに覚えようと努めました。祭の二週間ほど前、舞台が作られ、そこで舞つたとき、思つたよりは、よくでき、自信ができました。七月十二日、晴天でした。午前七時ごろ、神宮に行き、着物に着がえました。また髪もつけました。でも、それをつけたり、着物を着せてもらつたりする人がいなく、男性の人たちから着せてもらいました。また髪の毛も私たちの髪があまり短かかつたため、つけにくく、きれいにできませんでした。それから舞うまで一時間ほどの時間があつたため、重い着物を着たまま待つていました。なにしろ暑い盛りだつたので、汗が出て少し苦しさを感じました。舞が始まる五分前に舞台に行きました。大ぜいの人たちが舞台の前にすわつて、私たちの舞うのを待つていらつしやるように思えました。舞い始め、舞台の中央に静かに行く。心臓の音が聞こえ、何だかこわくなつてきました。そして、舞い始めたとき、まちがえてはいけないと思つて、一生けんめいに舞いました。終わつた。その瞬間、はつとした気持ちに初めてなりました。気がついてみると、体中は汗だらけになつていました。急いで着物をぬき、涼しくなりました。その後昼食を取り、二時ごろから、下の岩屋の中で二度目の舞を舞いました。ほんとうに楽しい一日でした。また、私の一生に残る思い出でしよう。

鵜戸中学校二A　田中恵美子

私は、前々から浦安の舞の話は、学校で聞きました。三年生から二人、二年から二人ということで、誰にきまるかわかりませんでした私は、友だちといろいろ話をしていたら、校長先生から、私と松浦さんに、話をして下さつたので、二年生は、私たち二人に、きまりました。練習は、七、日曜日にしました。最初は、歌を練習しましたが、この歌は、長くて、息が苦しくなつて、続かなくなることがたびたびありました。

歌を何回となくやつて、今度は、おどりの練習、私たちは、小学校のころおどつたことがあつたので、少し覚えていたのでよかつたですが、三年生は、初めてでしたので、私たちは、おもに歌を練習しました。三年生が、だいぶ覚えたので、かわるがわるやりましたが、なくて、何度も注意を受け、こんなことならしなければよかつたと、思つたりしました。でも、みんなよくできてきたといわれたときは、とてもうれしかつた。私は、きびしい練習もできることだとつくづく思いました。この思い出は、大きくなつてものこると思います。

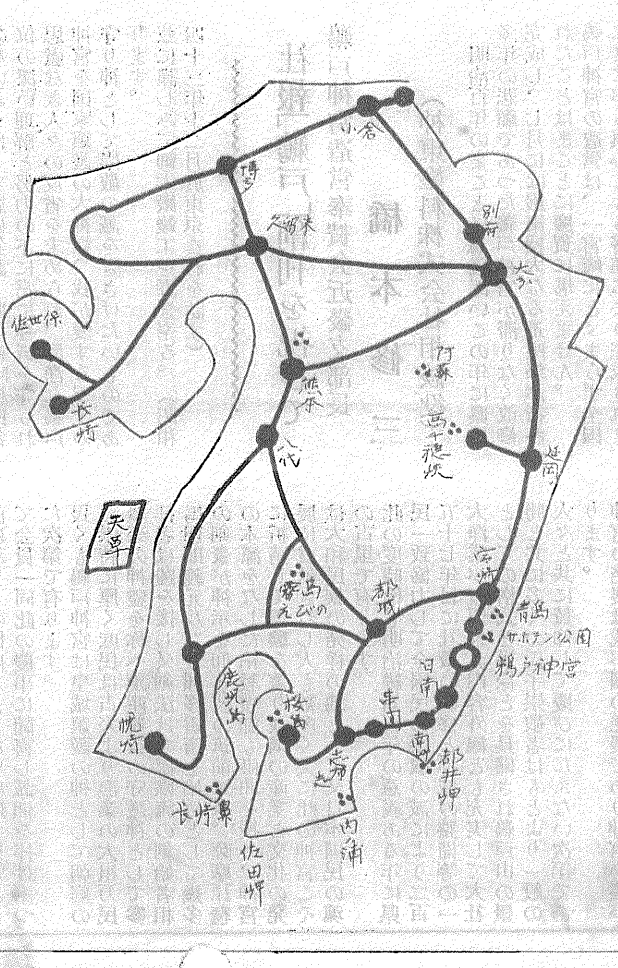
松浦節子

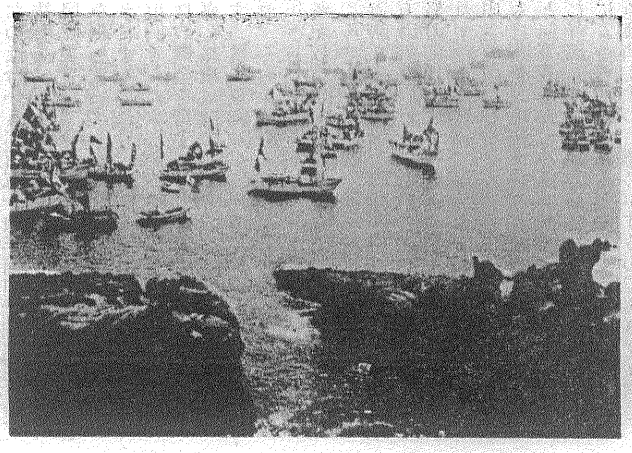
初めて先生から、浦安の舞を舞つてもらうということをきいたときは、ほんとうにびつくりしました。なにしろ、この舞の着物は費用が一人あたり、十一万円もかかるようなきれいな着物だつたからです。

その日以来私達は、土曜日と日曜日になると晴れの日も雨の日も、神宮にいつて舞のけいこをしました。初めの時はやめたくなるほどつらく思いましたが、一週間、二週間とならつていくとたのしくなりました。その日はもう眠れなくてができるだろうかと心配になつてきました。そして、その舞いも終わつて、その舞いも終わつて、私達の舞う番がきました。舞う前は、胸がどきどきしていてなにがなんだかさつぱりわからなくなるほどあつたので、一時間ほどの時間があつたため、重い着物を着たまま待つていました。なにしろ暑い盛りだつたので、汗が出て少し苦しさを感じました。舞が始まる五分前に舞台に行きました。大ぜいの人たちが舞台の前にすわつて、私たちの舞うのを待つていらつしやるように思えました。舞い始め、舞台の中央に静かに行く。心臓の音が聞こえ、何だかこわくなつてきました。そして、舞い始めたとき、まちがえてはいけないと思つて、一生けんめいに舞いました。終わつた。その瞬間、はつとした気持ちに初めてなりました。気がついてみると、体中は汗だらけになつていました。急いで着物をぬき、涼しくなりました。その後昼食を取り、二時ごろから、下の岩屋の中で二度目の舞を舞いました。ほんとうに楽しい一日でした。また、私の一生に残る思い出でしよう。

参拝順路

鵜戸山大権現即ち鵜戸神宮の創座は、昔から有名で、日本輿地路程全国（安永二年）大日本分境国（嘉永二年）大日本国郡輿地全国（文久四年）大日本輿地全国（元治元年）等々全国地図に鵜戸山として記載せられ、参拝の便とせられた由旧記に見えるが昔延暦年中参道八丁坂が築かれる迄は、海岸伝いに道なき道を求め岩石を攀じ登つて参拝したようで、日向七浦七峠を宮崎から三日二夜の旅枕を結んで参拝したとも残つている。明治四十四年宮崎内海港間に軽便鉄道が完通し内海港から吹井港に上陸参拝したのも人智の知るところ、大正十四年宮崎交通のバスが完通し、国道は、海岸伝いに道なき道を求め岩石を攀じ登つて参拝したようで、日向七浦七峠を宮崎から三日二夜の旅枕を結んで参拝したとも残つている。明治四十四年宮崎内海港間に軽便鉄道が完通し内海港から吹井港に上陸参拝したのも人智の知るところ、大正十四年宮崎交通のバスが完通し、国道二二〇号線の補装改善を進み昭和三十六年日南海岸一帯が国定公園に指定せられてからは愈々便利となり二十分三十分毎の大型バス観光バスを利用すれば、宮崎より八十分サボテン公園よりは十六分で参拝出来る。又近年自家用車を利用する者は海岸参道から塘内鳥居前駐車場へ直行坂道の登り下りの労が省ける事になる。又国鉄利用者は日豊線伊比井駅或は油津駅下車、宮崎交通バスを利用すれば十二分の距離にある。





奉祝船

海さち山さちの神話に名高い、鵜戸山さまは古来、海上安全、大漁守護の霊験あらたかなため四国九州各地の、海運、漁業関係者の特殊信仰をあつめているが、新造船の船おろしには満艦色に大漁旗を林立させた、新船が御社前、みふね岩周辺を三回旋廻して海上から参拝する習らわしになつている。船皆はるかな七ツの大洋、潮沫の至るとべまる極みに幸を求めて活躍される、海の男たちの勇ましい働きぶりを胸にえがくとき、その安泰を祈つて自ら目頭が熱くなる。奉祝祭当日社前に集り海上からお祝い申し上げた、三百余隻の鵜戸、油津、大堂津、南郷、栄松、外ノ浦、青島、折生迫、内海など漁協の皆さん方の奉祝風景である。

編後記

月刊、旬週刊誌、日刊紙、各神社の社報等等夫々の編集担当者が、いかに辛労しているかを初めてわかつた。御社殿改修第一期工事竣工を記念しての、さゝやかな社報だから大体内容も、きまつているものを数ケ月要したことは、平素の不勉強を恥じ入るのみ今後大方の御指導を得て回を重ねる内に、社報たるの使命を果したい茲に玉稿を寄せられました。皆さまに厚く御礼申し上げます（石坂）